

令和2年度上半期 公共下水道事業 業務の状況

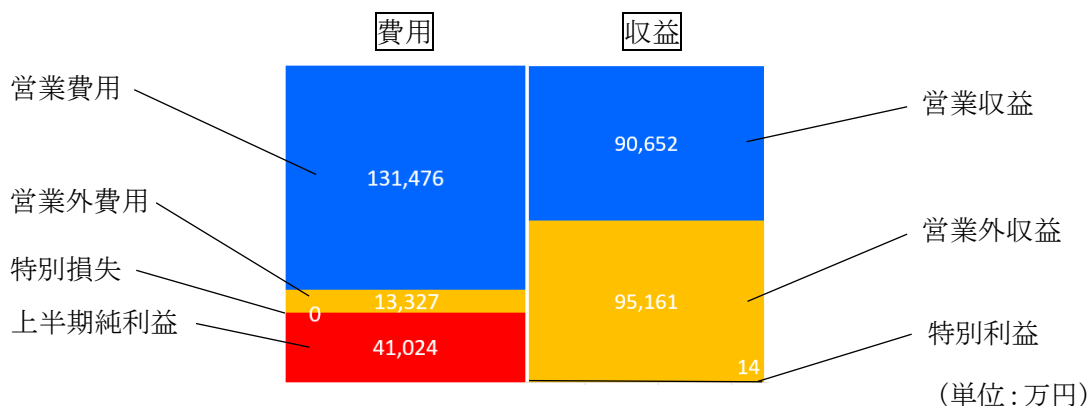
概要及び経営方針

令和2年度上半期の流入汚水量は606万m³で、主な収入である下水道使用料（税込み）は6億5,008万円となりました。

また、令和元年度末貸借対照表における下水道使用料等の未収金は、2億8,008万円ありましたが、2億7,436万円を収入しました。

事業活動につきましては、事故等もなく計画どおりに進めております。管渠及び終末処理場等の建設改良事業につきましても、予定どおりに順調に工事等の発注を終えております。

流入汚水量	606万m ³
下水道使用料収入	650百万円（税込み）



科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	131,476万円	営 業 収 益	90,652万円
営 業 外 費 用	13,327万円	営 業 外 収 益	95,161万円
特 別 損 失	0万円	特 別 利 益	14万円
上半期純利益	41,024万円		

※ 減価償却費及び長期前受金戻入は、当初予算の1/2を計上しております。

※ 資金収支の関係上、一般会計からの繰入金を早期に収入したことにより、上半期は純利益となっていますが、繰入金は年間を通じて使用するため今後変動が生じます。

令和元年度伊勢原市公共下水道事業報告書

本市の下水道は洪田川を境に東側を流域関連公共下水道、西側を単独公共下水道の区域としており、汚水と雨水を別々の管渠で排除する分流式を採用しています。

流域関連公共下水道は昭和 46 年に事業認可を得て、相模川流域下水道右岸処理区の一部として四之宮水再生センターで汚水を処理しています。また、単独公共下水道は昭和 53 年に事業認可を得て、伊勢原終末処理場で処理しています。

また、会計制度は、下水道施設の老朽化等、厳しさを増す経営環境を踏まえ、持続可能な下水道サービスを提供していくことを目指し、令和元年度から公営企業会計を適用しました。

令和元年度は、収入面においては、下水道への接続意欲が高い区域を整備する意向型面整備を進めるほか、下水道使用料の減免制度を見直し、収益の向上に努めました。支出面では、未普及対策の整備を行うほか、地震対策や老朽化した管渠の更生工事による長寿命化対策を行いました。また、処理場は沈砂池ポンプ設備の増設による処理能力の向上を図り、ポンプ場については設備機器の改築更新による長寿命化対策を図りました。

今後も経営の効率化を図りながら、計画的に整備を進めてまいります。

(経営及び排水状況) ※ () 内は消費税及び地方消費税込みの金額です。

事業収益は、3,307,945,396 円 (3,462,925,633 円) となった一方、事業費用は 3,160,707,321 円 (3,233,462,943 円) となりました。この結果、本年度の純利益は 147,238,075 円となりました。

また、資本的収入は 2,151,312,108 円 (2,155,167,660 円) となった一方、資本的支出は、2,748,889,213 円 (2,874,287,296 円) となりました。資本的収入額が資本的支出額に不足する額 719,119,636 円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 83,954,970 円、当年度分損益勘定留保資金 635,164,666 円で補てんしました。

排水状況については、下水道使用料収入となる有収水量が 8,449,222 m³で、前年度に対して 0.3% (21,491 m³) の増となりました。

(整備・改築更新状況)

令和元年度末における汚水施設の整備済延長は 278km、処理区域面積は約 900.72ha で前年度から 4km、9.16ha 増加しました。人口普及率は 79.3%となり、前年度から 0.1 ポイントの増となり、管渠の耐震化により、防災・医療拠点の流下機能の確保率は 84.9%となりました。

管渠については、ストックマネジメント計画に基づく更生工事を実施し、長寿命化実施率は 31.3%となりました。また、ポンプ場についても、設備機器の改築更新により長寿命化を図り、処理場は、沈砂池ポンプ棟の主ポンプと自動除塵機の増設により処理能力の向上を図りました。